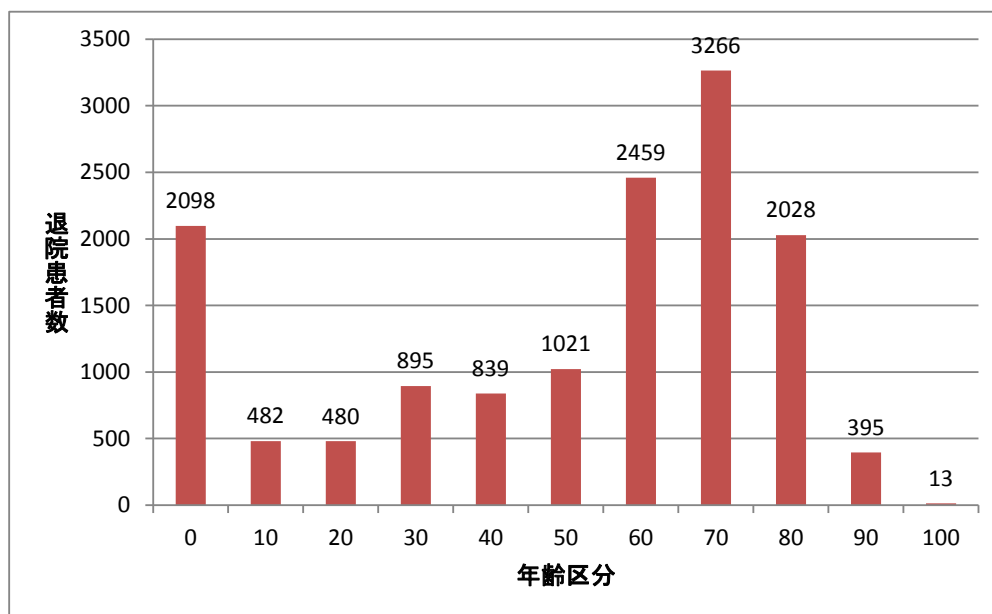


## 平成25年度 DPC臨床指標(クリニカルインディケーター)

### 1) 年齢別階級別退院患者数



当院の入院患者は60歳～80歳代が多く、60歳以上の患者さんが全体の約58%となっております。また、当院の地域周産期母子医療センターの機能により、新生児を中心に、10歳未満の患者さんも多くなっていると考えられます。

平成25年度中に当院を退院した患者さんの年齢を10歳刻みで集計しています

患者数：一連の入院を1カウントとし集計

※一般病棟とそれ以外の病棟を組み合わせた入院も一連であれば1入院とする

対象患者：医療保険適用患者で一般病棟入院患者

※除外：自賠責・労災・自費等の患者、緩和ケア病棟等一般病棟以外の患者

## 2) 診療科別 DPC14桁別症例数TOP3

### 循環器内科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし	258	2.3	66.2
050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等	196	2.7	64.8
050130xx99000x	心不全 手術なし	94	14.6	74.8

当院で多くのカテーテル治療を行っています。狭心症や心筋梗塞の患者にはバルーンとステントにより狭窄・閉塞部位の拡張治療を行っています。頻拍性不整脈の患者には心臓内の不整脈原因部位をカテーテルにより焼灼(60°程度の低温火傷を起こす)する治療を行い不整脈の完治療法を行っています。

狭心症に対しての心臓カテーテル検査(CAG)又は経皮的冠動脈形成術(PCI)は、予定入院となることから在院日数が2、3日と短くなっています。

### 血液内科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
130030xx99x40x	非ホジキンリンパ腫	92	19.8	66.2
130010xx97x2xx	急性白血病	34	45.9	47.2
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎	33	25.8	73.4

リンパ腫に対して化学療法を行った場合の症例を数多く診ております。その他にも貧血・白血球減少・出血傾向をきたす血液疾患や造血器悪性腫瘍の診断と治療を行っています。3番目の誤嚥性肺炎は、内科入院の際に血液内科の医師が主治医を担当した件数となっています。

### 腎臓内科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
110280xx99000x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	110	9.3	59.7
040080x099x0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上)	46	17.1	78.7
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎	33	23.4	75.9

慢性腎不全の患者の症例が110件と多く占めています。また、血液透析を導入するにあたり、動脈と静脈をつなぎ合わせるシャントを入院にて作成しています。

シャント作成は1泊2日の予定入院としています。2、3番目の肺炎は内科入院の際に腎臓内科の医師が主治医を担当した件数となっています。

### 消化器内科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
060340xx03x00x	胆管(肝内外)結石、胆管炎、限局性腹腔膿瘍手術等	103	10.5	66.5
060020xx99x30x	胃の悪性腫瘍	69	7.7	60.3
060210xx99000x	ヘルニアの記載のない腸閉塞	57	9.4	57.1

胆管結石に対して内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)を行い、ステント留置や結石除去などを行う治療を数多く行っています。また、化学療法を用いた胃癌の治療が2番目となっています。

### 呼吸器内科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
040080x099x0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上)	107	15.2	72.0
040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	72	12.1	67.7
040040xx9904xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等24あり	32	18.5	55

肺炎など呼吸器感染症治療を数多く行っています。また、当院の緩和医療センターと連携して患者の状態に合わせた総合的な医療を提供しています。

### 内分泌内科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
100070xxxxxxx	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)	99	15.7	58.4
010060x099030x	脳梗塞(JCS10未満)	40	16.9	65.9
040080x099x0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上)	31	17.4	76.3

2型糖尿病の糖尿病教育入院(体験入院)を、医師のすすめや患者の希望に応じて約2週間ほどの期間で行っております。

小児科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
040080x1xxx0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳未満)	531	7.2	2.9
030270xxxxxxx	上気道炎	290	7.1	2.6
150010xxxx0xx	ウイルス性腸炎	165	6.7	3.4

小児科入院症例において、肺炎が最も多く、次いで上気道炎が挙げられます。ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルスを始めとするウイルス性腸炎が3番目となっております。

外科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
060160x002xx0x	鼠径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術	101	6.0	65.6
060330xx02xxxx	胆嚢疾患(胆嚢結石など) 腹腔鏡下胆嚢摘出術等	98	8.6	53.6
060035xx0100xx	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 結腸切除術	68	21.1	69.6

外科で最も多い症例は鼠径ヘルニアです。鼠径ヘルニア手術を行った患者が数多くいました。また、胆嚢結石症に対して、ラパコレ(腹腔鏡下胆嚢摘出術)を行った患者が次いで多くいました。

整形外科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術	164	23.8	74.9
070343xx01x0xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。)	100	25.1	64.3
07040xxx01xx0x	股関節骨頭壊死、股関節症(変形性を含む。)	99	29.5	57.6

大腿骨頭部骨折、転子部骨折に対して骨折観血の手術を行った患者が多くなっています。手術後に地域連携バスを活用して早期に近隣の回復期病院へ転院し、自宅に帰れるような診療計画を行っています。胸部、腰部などの脊柱管狭窄症に対し、脊椎固定術や椎弓形成術などの手術を多く行っています。すべての脊椎疾患に対応できるように高度先進医療の積極的な導入を行っています。

脳神経外科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
010050xx02x00x	非外傷性硬膜下血腫 慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術等	42	8.9	70.2
010040x099x00x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満)	41	22.8	67.8
010030xx01x00x	未破裂脳動脈瘤 脳動脈瘤頸部クリッピング等	19	7.5	60.3

脳出血、くも膜下出血、脳梗塞など急性期中心に治療をしています。死亡率の高い、くも膜下出血の原因である脳動脈瘤の予防的手術に関しても積極的に行っています。脳動脈瘤手術に関しては電気生理モニターや術中蛍光造影を積極的に行い、合併症の少ない手術を追及しています。

皮膚科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
080011xx99xxxx	急性膿皮症 手術なし	30	10.8	63.8
180060xx97xxxx	その他の新生物 手術あり	14	3.0	46.6
03001xxx01000x	頭頸部悪性腫瘍 頸部悪性腫瘍手術等	10	4.5	65.2

急性膿皮症(蜂窩織炎等)が最も多くなっています。治療は、抗生物質を使用し行います。皮膚腫瘍に対しては、皮膚・皮下腫瘍摘出術を行っています。

泌尿器科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし	276	2.0	64.0
11012xxx040x0x	上部尿路疾患 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術(一連につき)	91	3.2	55.0
110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術	71	6.7	68.7

前立腺癌に対して、特殊な針を前立腺に刺し、組織を採取する前立腺生検を行っています。がんの有無だけでなく、その悪性度と大きさを正確に評価することが重要になります。また、最新型の体外衝撃波結石破碎装置(ESWL)を導入し、2泊3日の入院で尿路結石の破碎を行っています。どちらもクリニカルパスを適用して短い在院日数となっています。

## 産婦人科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
120180xx01xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 子宮全摘術等	108	9.4	29.5
120180xx99xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 手術なし	93	1.5	30.1
120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍 子宮全摘術等	85	9.5	36.6

当院は、地域周産期母子医療センターとして年間約700件の分娩を取り扱っています。また、婦人科としても、悪性腫瘍に対する治療を多く実施しています。

## 眼科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 手術あり両眼	188	5.2	68.6
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり片眼	131	3.0	63.4
020200xx9710xx	黄斑、後極変性 手術あり	25	10.4	65.8

白内障・糖尿病網膜症・緑内障・網膜剥離・黄斑疾患などを中心に治療を行っています。主に白内障に対して水晶体再建術を行う患者が大半を占めています。

## 耳鼻咽喉科

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数	平均年齢
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	62	5.0	61.9
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	46	5.3	35.8
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	41	7.5	7.2

末梢性めまい症、メニエール病などに対して脳や内耳の血管を広げて血液循環をよくする点滴を行います。また、扁桃周囲膿瘍には扁桃周囲膿瘍穿刺や抗生剤など選択的に治療を行っています。

3) 初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明	再発
胃癌	42	14	28	49	3	2
大腸癌	28	61	49	37	7	2
乳癌	35	50	9	7	1	0
肺癌	14	2	16	50	5	2
肝癌	12	16	12	11	11	9

罹患率の高い5つのがん(胃癌・大腸癌・乳癌・肺癌・肝癌)を病期(ステージ)ごとに集計したものです。医師が「がん(がん疑い)」と診断した時に1件とカウントされ、①がんの大きさや進展度、②リンパ節転移、③遠隔転移の有無によって病期(ステージ)が決定します。病期(ステージ)は数字が大きいほど「進行しているがん」と表されます。病期(ステージ)が不明の症例は、上記の①～③に一つでも不明な項目がある症例を表し、不明な項目を明らかにするための検査入院症例も含まれています。当院では胃がんの患者が最も多く、次いで肺がん、大腸がんの患者が多くなっています。Stage Iの早期がんだけでなく、stage IVの末期がん患者も多くなっています。

5大癌について初発患者はUICCのTNMから示される病期分類による退院患者数を、再発患者(再発部位によらない)は期間内の実患者数を集計しています

患者数:一連の入院を1カウントとし集計

※一般病棟とそれ以外の病棟を組み合わせた入院も一連であれば1入院とする

※集計期間内に複数回入院しても1例とカウントする

対象患者:医療保険適用患者で一般病棟入院患者

※除外:自賠責・労災・自費等の患者、緩和ケア病棟等一般病棟以外の患者

#### 4)肺炎の重症度別患者数

	症例数	平均在院日数	平均年齢
軽症	88	11.4	58.7
中等症	180	21.5	73.7
重症	35	25.5	80.1
超重症	12	36.9	88.3
不明	1	15.0	78.0

市中肺炎とは普段の社会生活を送っている中で罹患した肺炎のことを言います。高齢者では症状がはっきりしない場合もあり、できるだけ早期に適切な抗菌薬を適切な量と期間で投与する必要があります。当院では入院患者の中で最も多い症例が肺炎であり、その中でも「中等症」の症例が最も多く全体の約50%を占めています。年齢が高いほど重症度が高くなる傾向にあり、平均在院日数も長くなっています。

成人(20歳以上)の肺炎患者さんについて重症度別に患者数、平均在院日数、平均年齢を集計したものです

患者数:一連の入院を1カウントとし集計。

※一般病棟とそれ以外の病棟を組み合わせた入院も一連であれば1入院とする

対象患者:医療保険適用患者で一般病棟入院患者

※除外:自賠責・労災・自費等の患者、緩和ケア病棟等一般病棟以外の患者

重症度は、市中肺炎ガイドラインによる重症度分類システム(A-DROPシステム)(※)により分類しています

#### 【定義】

- ・入院契機病名および最も医療資源を投入した傷病名が肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(DPC 040080相当)で、さらにその中でも ICD10コードがJ13~J18で始まるもの
- ・インフルエンザ等、ウイルス性肺炎(DPC 040070相当)、誤嚥性肺炎(DPC 040081)は除外
- ・入院後発症の肺炎、一般病棟外からの転入、他院からの転院も除外
- ・肺炎の重症度分類(A-DROPシステム)
  - ①男性 $\geq 70$ 歳、女性 $\geq 75$ 歳
  - ②BUN $\geq 21$ または脱水(+)
  - ③酸素飽和度 $\leq 90\%$
  - ④意識障害(肺炎に由来する)
  - ⑤sBP $\leq 90$ mmHG

軽症: 上記5つのいずれも満たさない

中等症: 上記1つまたは2つを有する

重症: 上記3つを有する

超重症: 上記4つまたは5つ、またはショック

5) 脳梗塞のICD別患者数

ICD-10	傷病名	発症日から	症例数	平均在院日数	平均年齢
1630	脳実質外動脈の血栓症による脳梗塞	3日以内	1	3.0	73.0
		その他	—	—	—
1631	脳実質外動脈の塞栓症による脳梗塞	3日以内	2	26.0	59.0
		その他	—	—	—
1633	脳動脈の血栓症による脳梗塞	3日以内	113	28.7	67.4
		その他	17	28.1	68.9
1634	脳動脈の塞栓症による脳梗塞	3日以内	57	37.4	70.3
		その他	1	5.0	4.0
1635	脳動脈の詳細不明の閉塞又は狭窄による脳梗塞	3日以内	20	27.0	71.1
		その他	1	3.0	66.0
1638	その他の脳梗塞	3日以内	75	18.1	65.6
		その他	18	30.2	67.0
1639	脳梗塞、詳細不明	3日以内	11	10.8	69.2
		その他	2	45.5	75.0

脳梗塞は、脳に酸素や栄養を送る血管が細くなったり、詰まってしまうことによって、脳が壊死または壊死に近い状態になってしまう病気で、治療が遅れると死亡したり、重い後遺症が残りますが、発症後早期に治療することによって、社会復帰できる可能性が高くなります。

発症より3日以内の症例がほとんどです。転院率が高くなっていますが、これは、愛知県尾張北部医療圏内で脳卒中地域連携パスを整備し、地域の回復期病院や開業医とも密な連携体制を整えて早期退院を進めている結果となっています。脳卒中地域連携パスを活用して転院する患者は毎月5～10件程度となっております。

脳梗塞(DPC 010060)の病型別の患者数、平均在院日数、平均年齢を集計しています

患者数:一連の入院を1カウントとし集計

※一般病棟とそれ以外の病棟を組み合わせた入院も一連であれば1入院とする

対象患者:医療保険適用患者で一般病棟入院患者

※除外:自賠責・労災・自費等の患者、緩和ケア病棟等一般病棟以外の患者

6) 診療科別 主要手術の術前、術後日数 症例数TOP3

循環器内科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K549	経皮的冠動脈ステント留置術	301	0.8	6.5	64.2
K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術	31	2.1	3.0	55.4
K5972	ペースメーカー移植術(経静脈電極)	30	2.9	13.6	71.3

狭心症治療のため経皮的冠動脈ステント留置術(PCI)や心房細動等治療のための経皮的カテーテル心筋焼灼術(アブレーション)を多く行っています。

血液内科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K9222口	造血幹細胞移植(末梢血幹細胞移植)(自家移植)	9	13.8	39.8	44.6
K9221イ	造血幹細胞移植(骨髄移植)(同種移植)	9	20.9	88.7	45.0
K9223	造血幹細胞移植(臍帯血移植)	8	29.8	84.4	42.1

造血幹細胞移植に向けた末梢血採取が最も多くなっています。それに伴って造血幹細胞移植も症例数が多くなっています。

腎臓内科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K610-3	内シャント設置術	40	13.4	20.5	64.8
K0001	創傷処理(筋肉、臓器に達する)(長径5cm未満)	16	9.1	42.4	64.6
K6146	血管移植術、バイパス移植術(その他の動脈)	12	8.8	30.1	65.8

透析治療に利用する内シャントを設置する手術を多く行っています。この内シャント設置術は、通常は自己血管を使用しますが、血管の状態によっては人工血管を使用してシャントを作成することもあります。人工血管を用いた場合は血管移植術、バイパス移植術(その他の動脈)の術式となります。

消化器内科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K654	内視鏡的消化管止血術	117	1.8	16.6	65.3
K682-3	内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術	87	2.0	19.0	61.4
K6871	内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみのもの	87	2.2	10.4	64.4

消化管出血例には緊急内視鏡検査を行い、止血処置を行います。また、胆管炎や閉塞性黄疸に対して鼻から胆道にかけてドレナージチューブを挿入し、胆汁を体外に排泄させる方法も多く行っています。

呼吸器内科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K664	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)	13	28.0	46.8	78.0
K0004	創傷処理(筋肉、臓器に達しない)(長径5cm未満)	5	19.8	52.4	53.0
K0011	皮膚切開術(長径10cm未満)	3	11.0	70.7	67.7

誤嚥性肺炎により嚥下機能が低下し、栄養補給困難な場合や栄養状態の改善により嚥下機能を改善させたいときの有用な手段として行っている。

内分泌内科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K664	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)	14	30.7	93.2	72.3
K721-21	内視鏡的大腸ポリープ切除術(長径2cm未満)	4	14.3	35.0	61.0
K6852	内視鏡的胆道結石除去術(その他のもの)	4	6.8	23.5	71.3

誤嚥性肺炎により嚥下機能が低下し、栄養補給困難な場合や栄養状態の改善により嚥下機能を改善させたいときの有用な手段として行っている。また、スクリーニング検査にて大腸ポリープを認め、切除術を行っています。



小児科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K9131	新生児仮死蘇生術(仮死第1度)	78	0.0	17.0	0.4
K6335	鼠径ヘルニア手術	33	1.0	1.1	3.5
K9132	新生児仮死蘇生術(仮死第2度)	26	0.0	40.5	0.3

地域周産期母子医療センターの指定を受けている当院では出生時における新生児の仮死蘇生術を多く行っており、中でも仮死第1度の症例が最も多く挙げられます。

外科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	130	1.8	7.7	53.1
K6335	鼠径ヘルニア手術	127	1.0	4.9	59.9
K7193	結腸切除術	74	5.9	21.4	69.3

胆嚢結石症に対して行う腹腔鏡下胆嚢摘出術が最も多く、次いで鼠径ヘルニア手術となっております。

整形外科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K0821	人工関節置換術 肩、股、膝	166	1.4	28.9	63.1
K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術	132	3.6	21.6	62.4
K0461	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	129	1.7	20.3	70.8

変形性関節症に対する人工関節置換術(多くは膝関節と股関節)を多く行っており、次いで脊柱管狭窄症に対し脊椎固定術、椎弓形成術を行っていま

脳神経外科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	42	0.4	7.5	70.2
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング(1箇所)	23	1.5	8.6	54.6
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術(その他)	15	2.1	34.9	54.6

慢性硬膜下血腫の治療法には外科的手術が推奨されており、当院でも多数行っています。リハビリが必要な患者に関しては、他院と連携し継続してリハビリ治療が行えるよう努めています。また、脳動脈瘤に対する手術や脳腫瘍に対する手術も多数行っています。

皮膚科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	13	0.5	2.7	65.0
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm以上4cm未満)	9	0.3	1.6	35.2
K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外)(長径6cm以上)	7	0.6	2.4	45.4

顔面の皮膚がんが最も多く、表皮の最下層である基底層や毛包などを構成する細胞が悪性化した基底細胞がん、有棘細胞がんに対して皮膚悪性腫瘍切除術を行っています。

泌尿器科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K768	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術(一連につき)	93	1.0	1.4	55.3
K841-21	経尿道的レーザー前立腺切除術(ホルミウムレーザー)	68	1.7	5.7	65.6
K7811	経尿道的尿路結石除去術(レーザー)	64	1.6	2.0	52.1

体外衝撃波結石破碎装置(ESWL)を導入し、2泊3日の入院で尿路結石の破碎を多く行っています。尿道から内視鏡を通し、ファイバーを挿入してレーザー光を照射し腺腫を摘出する前立腺切除術も次いで行っています。

## 産婦人科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K8982	帝王切開術(選択帝王切開)	116	4.7	7.6	31.2
K8881	子宮付属器腫瘍摘出術(両側)(開腹)	115	1.1	7.9	41.6
K877	子宮全摘術	99	1.0	7.9	44.2

1件の差ではありますが、帝王切開術と卵巣と卵管を摘出する子宮付属器腫瘍摘出術を数多く行っています。

## 眼科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K28210	水晶体再建術(眼内レンズ)を挿入する場合(その他)	381	1.2	4.9	66.0
K2801	硝子体茎頭微鏡下離断術(網膜付着組織を含む)	54	0.2	10.1	65.4
K275	網膜復位術	25	0.0	9.6	43.7

白内障に対して水晶体再建術を行っており、多くは両眼を1入院で行っています。

## 耳鼻咽喉科

手術コード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢
K3772	口蓋扁桃手術 摘出	70	1.0	6.0	15.0
K309	鼓膜(排液、換気)チューブ挿入術	43	0.2	1.0	6.5
K370	アデノイド切除術	37	1.0	5.6	6.2

扁桃腺炎に対し、扁桃腺を摘出する手術を多く行っています。鼓膜に小さなチューブを挿入し、中耳炎の発生頻度を低減し、過剰の液体を排出させる鼓膜チューブ挿入術も次いで行っています。

7) その他(DIC、敗血症等の発症率)

DPC	傷病名	入院契機	患者数	発症率(%)
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	5	0.04
		異なる	45	0.32
180010	敗血症(1歳以上)	同一	37	0.26
		異なる	117	0.84
180035	その他の真菌症	同一	4	0.03
		異なる	15	0.11
180040	手術・処置等の合併症	同一	48	0.34
		異なる	21	0.15

医療の質向上のため、臨床上ゼロにすることはできませんが少しでも改善すべき項目として、4つの傷病名について公表しております。

播種性血管内凝固症候群や敗血症等(臨床上ゼロにはなりえないものの少しでも改善すべき病名)について、入院の契機となった病名との同一性の有無を区別して、患者数と発症率を示しています

患者数:一連の入院を1カウントとし集計

※一般病棟とそれ以外の病棟を組み合わせた入院も一連であれば1入院とする

対象患者:医療保険適用患者で一般病棟入院患者

※除外:自賠責・労災・自費等の患者、緩和ケア病棟等一般病棟以外の患者

発症率:患者数/集計期間の総退院患者数